

- 1) 評価対象課題  
第2期中期運営方針に基づき、令和5年度に実施した、7つの大課題、20の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法  
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用  
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

**評価委員名簿**

評価委員氏名	
上田 味哥子	元奈良県指導農業士会会長
鶴木 千里	元奈良県消費生活審議会委員
前田 伸一	元奈良県指導農業士会会長
森山 達哉	近畿大学農学部長
乾 新弥	奈良県食と農の振興部長

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.2	3.2	3.2	10.6
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽苔しにくい品種候補の種が多数取れているので、その中から選抜されていくと思う。吸水処理により発芽率が改善されるということで、苗を作っていると思うので、次につながっていくと考える。5年間で確実に種子の数が増やせているので評価できる。</li> <li>・抽苔しにくい優良品種の育成が達成されつつあるので、目的の成果は得られると考えられる。一方で、まだ確定的な品種の確保までは至っておらず、研究期間が必要である。今後は、経済効果なども含めて、実需者へのメリットを定量的に評価し、アピールすることも必要と考えられる。</li> <li>・今回の成果を踏まえ、選抜が継続される系統もあるとのこと。収量性を高められる優良品種として実証されることを期待する。</li> <li>・非常に重要な研究であり、結果も良好である。</li> </ul>	4.2	4.2	4.2	12.6
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高畝や浅植えの技術、分岐の少ない苗の育苗方法など一年毎に研究結果を出せている。また、農業登録拡大は生産者にとっては防除の手間が少なくなるので大変助かる。</li> <li>・現場のニーズに応える重要な課題と言える。飛躍的な効果とまでは言えないが、統計的に有意な効果を示した点は重要である。農業の登録拡大も終え、マニュアルの改訂、現地実証試験など、目に見える成果が得られている。この成果を実需者へ効率的に提供し、収益性の向上を目指して頂きたい。</li> <li>・すでに実証試験、改訂マニュアルに基づく現地指導もされており、安定生産による収益性の向上につながるのではないかと期待する。</li> <li>・成果が出ており、安定生産につなげてほしい。</li> </ul>	4.2	4.0	3.6	11.8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1穴密植栽培の収量比較など、確実に成果が出ている。廃棄されていた小苗の活用や、洗浄方法の省力化など、作り手にとってはとても有難く有効な技術であり、マニュアル化されたのはとても評価できる。</li> <li>・トウキの単味エキス製剤原料に特化した省力栽培法に関して、開発された一穴密植栽培の有用性が示唆され、当初の目的は達成しつつあると評価できる。作業時間や経済効果まで評価しており、優れた研究である。今後は、苗準備や定植にかかる作業時間増大に関して、有効な対策を工夫し、より省力化を目指していただきたい。栽培マニュアルの追記改訂により、実需者への効果的な普及活動を期待している。</li> <li>・ヤマトトウキ栽培マニュアルに基づいた情報提供と現地支援により安定生産につながることを期待する。</li> <li>・大和トウキの省力栽培技術の結果が出ており非常に良い。</li> </ul>	4.2	4.0	3.2	11.4
	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.2	4.0	3.2	11.4	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀地域に適した薬草の品種が絞り込めた事で、新しい薬草作りになると思うので、増産される事を期待する。</li> <li>・宇陀地区における新たな薬草生産による地域振興に資する重要な課題である。選定された4品目の効果的な栽培方法を明らかにした点は高く評価される。ヒロハセネガの現地導入に有益な情報として実需者への効果的な周知、社会実装が望まれる。</li> <li>・ヒロハセネガは現場導入が試みられているとのこと良かった。</li> <li>・ヒロハセネガを宇陀地域にうまく定着させ、地域振興につなげてほしい。</li> </ul>					

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	奈良オリジナルの 優良品種の育成	需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	4.0	4.0	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5～6月出荷の小ギクの育成から品種登録出願ができたのは、研究の成果だと思う。新品種のキクについてもバリエーションに富んでおり、生産農家も増えているので大変良い研究だったと思う。</li> <li>・仏花等としてのキクの責任産地として、本研究は重要な課題である。春日Y2の品種登録や白色有望品種の選抜、特殊ギク有望8品種など、想定以上の成果が得られたと言える。今後は実需者への成果の還元而努力し、栽培現場での収益性の向上を定量的に見届けて頂きたい。</li> <li>・普及組織との連携で登録品種の生産拡大につながることを期待する。</li> <li>・栽培面積も増えており、農家に浸透しはじめてるように感じる。</li> </ul>				
		奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.6	4.0	4.2	12.8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県オリジナルの酒米がなかった所から、有望系統を作り出し、研究としては結果が出たと思う。</li> <li>・奈良県を日本酒発祥の地としてさらにアピールしていくためには、奈良県産の良い酒米の開発は必須である。試験醸造のお酒は辛口端麗で、スッキリとした味わいであった。もう少し欲を言うと、もう少し旨みが強いとより美味しいお酒になると思われる。酒蔵と共同で、ぜひストーリー性のある良い奈良県産清酒の開発を達成して頂きたい。上手くアピールして実需者を取り込んで行くことが必要であろう。</li> <li>・ストーリー性のあるおいしい奈良の清酒が、誰もが知る全国区のお酒になることを楽しみにしている。</li> <li>・酒造メーカーからも好感触で奈良県の新しい米作りに期待したい。</li> </ul>					
		新たな高品質甘柿品種の育成	5.0	3.4	3.8	12.2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年間の交配の中で有望品種ができたのはとても良いことです。味も大変甘くて食感も良く新品種として登録できる事を期待する。</li> <li>・柿は奈良県の重要果樹であり、既存の品種と収穫期が重ならないオリジナル品種の開発は県としての重要な課題である。本研究では、有望な系統が得られ、品種登録も見据えた現地適応試験まで予定しており、優れた成果が得られたと言える。将来的には収益性の高い品種として普及することを期待したい。</li> <li>・試食した柿は、大変美味しかった。高品質柿として出回る日を楽しみにしている。</li> <li>・新品種が出来る事で農家の栽培意欲も高まり産地の生産向上につなげてほしい。</li> </ul>				
	遺伝資源の保存と 活用	奈良に歴史的ゆかりのある遺伝資源の保存と活用	4.0	3.4	4.0	11.4
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・種子の保存は継続していくべき事業と思っている。種子の更新もなされているし、新品種の開発にも役立っているので、良い取り組みだと思う。</li> <li>・本研究課題のような一見地味な取り組みこそ、自治体が継続的に行うべき課題であると感じた。このような遺伝資源から、将来有望な品種が開発できたり、ストーリー性のある品種が普及する可能性もあり、重要な社会的課題であると感じた。論文や学会発表などの成果の公表も行われており、また、配布試料を用いた社会実装も達成されていることから、評価できる。今後は、クラウドファンディングなどによる資金調達も有効かもしれない。</li> <li>・非常に重要な仕事であり、奈良の伝統を守り、また、普及にもつなげてほしい。</li> </ul>				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.2	4.0	3.6	11.8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>糖液の白濁や加工果実の褐変等の課題も改善されマニュアルも出来るので成果があったと思う。一年を通して柿のスイーツ等に活用できると思うので、より広まって欲しい。</li> <li>生食以外の食べ方として種のない渋柿を材料にした糖蜜漬けの開発は、柿の新たな需要を起こす可能性のあるユニークな取り組みである。製造や品質に関する課題も解決され、あとは実需者への社会実装に努めて頂きたい。柿のフレーバーを強めることで、かき氷などへのトッピングにも使える。新たな食品として話題性もあり、ソーシャルネットワークやメディア戦略などへの展開など、攻めのアピールも検討して頂きたい。</li> <li>県下の事業者によく採用してもらい、スイーツ等に利用してもらえるよう働きかけをお願いする。</li> <li>長期保存が出来る事で、販売期間も長くなり、また、規格外の柿を使用する事で農家の手取りも増え有利販売になる。</li> </ul>				
		柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.2	4.0	3.8	12.0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々味も良くなっていて、お茶というよりは、別の（ジュース）飲み物のようであった。機能性もあるということなので販売もしやすくなると思う。</li> <li>スッキリしてお茶というイメージを超える爽やかな飲料で、驚いた。奈良県産の機能性のある乳酸菌を取得し、エビデンスもあることから、もっとアピールすべき。できれば、得られた柿葉後発酵茶そのものの機能性を評価すべき。そうすれば、より大きなアピールとなり得る。</li> <li>柿葉後発酵茶は想像したよりあっさりとした味で、清涼飲料水に近いように感じた。美味しかった。</li> </ul>					
	加工適性を高める栽培技術の開発	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.2	4.0	4.6	12.8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>パンや素麺を作っておられる方からの評価が良いという事なので、研究としては目標は達成されたと思う。</li> <li>国産小麦は全国的に広く求められており、奈良県産の強力系品種の要望は高い。本課題では「はるみずき」の選抜と適した栽培体系の確立を行い、県推奨品種への指定、栽培普及などが達成されており、事業効果は高いと評価できる。さらに生産拡大や需要拡大に努めて頂きたい。</li> <li>「ふくはるか」に代わる「はるみずき」の栽培体系が確立し、令和6年度より全面切替になるとのこと。素晴らしい成果が出て良かった。</li> <li>国際情勢も不安定になっており、地産地消の考え方、また、学校給食に利用する事で食育にもなり非常に良い。</li> </ul>				
ワインに適したブドウ品種の果実品質研究		3.8	3.8	3.4	11.0	
<ul style="list-style-type: none"> <li>奈良県に適したワインブドウの品種が選定できたこと、標高も確認できたのは良かった。ブドウ生産に適した地域で、生産が増えていけばワイナリーの事業も成功すると思う。</li> <li>ワイン・ワイナリーは人気の6次産業であり、新規就農者にとっても魅力的な材料である。本課題は奈良県に適したブドウ品種の選定と、その栽培技術の確立を行った。防除のポイントなども含め、重要な知見が得られたと評価できる。栽培好適地の選定や実需者へのアピール、社会実装を目指して美味しい奈良県産ワインの実現に向けて継続した取り組みが望ましい。</li> <li>県下の唯一のワイナリーが安定して存続していけるよう支援をお願いする。</li> <li>奈良県に適した品種の栽培が増える事で、地域振興にも期待したい。</li> </ul>						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	3.8	3.8	3.2	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和野菜の機能の調査は大変良い研究である。ハウレンソウについては、品種の比較は良いが、生産者にとってその品種が作りやすいかが重要であるとも考える。</li> <li>・青果物の機能性表示食品が増えており、奈良県産の農作物にも適用できるかどうか、検討した研究であり、結果としてハウレンソウのルテインにフォーカスした。ルテイン量に影響を与える栽培技術の検討や作型ごとの高含有品種を明らかにした点、学会や論文での成果報告、生産現場への情報提供など優れた成果を挙げたと評価できる。一方で、現場での機能性表示化へと取り組む熱量を上げるところまでの波及効果には至っていないので、その点が今後の課題である。</li> <li>・機能性をうたうメリットが農家にとってさほどなく、ブランド力強化とその為の投資が釣り合わないという、理想のイメージと現実のすり合わせの困難さを感じた。</li> <li>・機能性を明示して販売する事で、消費者の購買意欲にもつながり、他産地との差別化がはかれ有利販売になる。</li> </ul>				
高品質に繋がる生産技術の開発	輸出向け生産技術の開発	輸出需要向け茶生産技術の確立	4.6	4.0	3.6	12.2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国内でのお茶の需要が伸び悩む中で、この生産技術の活用で輸出が増えていくと良い。</li> <li>・日本茶の海外での人気上昇に合わせて、輸出茶葉、とくに残留農薬の基準値以下の茶葉が広く求められている。本課題では、農薬以外の防除法の検討や、減農薬の導入などを検討し、有効な栽培方法の提案が可能となった点が評価できる。奈良のお茶（大和茶）の、静岡や京都、三重など競合県との差別化に資する特徴をアピールすることも今後は期待したい。</li> <li>・今後も引き続きの研究をお願いする。</li> <li>・農薬の使用回数も半分以下に低下しており、有利販売が見込める。</li> </ul>				
安定生産技術の開発	環境変動に対応した安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.2	3.2	3.2	10.6
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油使用量の削減を目標に、ハスクレイを使ったシステムは研究が進んでいると思う。自動化に向けて続けて開発していくのも大切と思う。導入費用が高いのは少し気になる。</li> <li>・昨今の燃料の高騰に対応するための、化石燃料に頼らない施設内温湿度管理方法の検討であり、社会的な必要性は高い。本課題では、吸湿剤を用いた調整システムを詳細に検討し、そのシステムを構築した点は評価できる。しかしながら、得られた効果は限定的であり、また運用にはやや煩雑さを伴うため、社会実装は困難であろう。ただし、研究課題としての必要性は高いため、継続的な研究が求められる。</li> <li>・システムはできたけれども導入コストの問題で経営的に厳しいとのこと。小課題にも「低コストに」と入っていたので残念。</li> <li>・油代が高騰している中、新たな暖房・除湿のシステムはありがたい。</li> </ul>				
		計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	4.6	3.8	3.8	12.2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開花予測が±2日の精度となったのは十分な成果。関係者の方が使いこなせ、市場への情報提供がなされる事を期待する。</li> <li>・計画出荷に使用できるキクの開花予想プログラムの開発に成功し、一定以上の成果が得られたと評価できる。今後は、現場でのスムーズな運用や、実測値との比較検討による精度アップ、NAROのWAGRIなどとの連携、AI利用のリベンジなど、さらに高度化、普及に期待する。</li> <li>・産地として、面積の拡大及び産地間競争にも有利に働くと思う。</li> </ul>				
安定生産技術の開発	環境変動に対応した安定生産技術の開発	遺伝子診断によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	4.2	3.4	4.0	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・抵抗性遺伝子の診断が、3週間から3日に大幅に短縮できたのは、大変評価できる結果。効率的な病害防除は農家としてはとてもありがたいが、病害発生時の判断が農家自身が見つけ、判断をしてもらう連携がうまくいけばよりよい。</li> <li>・抵抗性遺伝子の同定、判定用プライマーの設計、主要薬剤感受性検定など、キクやトマトなどの重要な作物に対する重要病害の診断に資する成果を得られた点は高く評価できる。実需者の利益になるために、本技術の現場での普及や導入、及び論文・学会等での成果公開が期待される。</li> <li>・現場の農家の助けとなるようスムーズな連携と情報提供がされることに期待する。</li> <li>・農家レベルでは、どの農薬が効果があるのかないのか、利用してみないとわからないので、より早く情報がほしい。</li> </ul>				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
省力化技術の開発	生産者に優しい生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.2	3.2	3.2	10.6
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・低木栽培は農家にとっては有利な栽培方法になる。ジョイント栽培は他県でも試されており、共に課題があるとのことだが、導入されているという点においては評価できる。</li> <li>・本県での重要果樹である柿の安全、かつ負担の少ない栽培のための低木栽培技術は、現場からの要望や必要性も高い。本課題ではジョイント栽培やわい性台木の利用で低木栽培を試み、一定の目標を達成した。前者では、ジョイント外れが発生すること、後者ではちょうど良い樹高調節がなかなか難しいことなど、更なる課題が存在するので、栽培現場での社会実装を目指して、それらの課題の検討を継続して欲しい。</li> <li>・成果は出ておりとても良い。農家も高齢化しており、脚立を使用しない方が、安全性・省力化にもなり良いと感じる。</li> </ul>				
環境保全型農業技術の開発	環境に優しい生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	4.6	3.4	4.0	12.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・天敵製剤の利用は年々活用されていると思う。薬剤防除との組み合わせ技術は農家にとってはとても良い情報で、より精度が上がってくれる事を望む。</li> <li>・農業に頼らない天敵を用いた防除体系の構築は今後の有機農業の進展にとって重要な課題である。本課題では、促成イチゴと露地ナスにおいて、天敵製剤と選択的殺虫剤等を組み合わせた減農薬栽培法の構築に成功した。とくに天敵製剤はその導入ポイントの選定が重要であるので、得られた成果は実需者にとって役立つであろう。普及への取り組みも継続して実施してほしい。</li> <li>・実用化に期待する。</li> <li>・天敵を利用しながら、安全な生産は農家にもありがたい。</li> </ul>				
	土壌改良に活用できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	4.2	3.2	3.8	11.2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田の畑地化利用に向けて暗渠の活用は有効であると実証されたのは、農家への情報提供としてとても実用性がある。</li> <li>・水田転換圃場の土壌改良は重要な課題である。研究成果として、概ね想定通りの結果が得られた点は評価できる。初期投資に見合う収量など経済的効果の妥当性なども今後は検討が必要であろう。</li> <li>・水田を畑地化させ、より多くの野菜の栽培が広がり新しい産地が見込める。</li> </ul>				